

# 自蹊庵便り

令和六年 弥生

NO 167

「茶事折々 暁の馳走は炭にて候」

今年も無事に暁の茶事を終えることができました。京都は大徳寺瑞峯院にての三日間は早朝三時には餘慶庵に着くも、すでに暖房と茶室の明かりを調べてくださっており、御住職さまの早朝というよりは深夜にての御協力に感謝一入にございました。

席入りの皆様にも極寒の中での御来庵、なかなか心入れのいることにございます。畳に蠟をこぼしたりという粗相もけがもなく無事終えましたことは、偏に御参加の皆様の日頃の鍛錬の賜にございます。

お一人お一人心を引き締めての働きの心よりお礼申し上げます。

拙庵では二月には暁の茶事を、茶飯釜での趣向が恒例になっております。汁は掴みくずし豆腐に蒔のとうのザクザクと切った

もの、煮物椀、焼物替わりに牡丹鍋と、これまで恒例になっております。全て席中の作業ゆえ、遊び過ぎず、前茶には湯のたぎる中での迎えが調うよう、五感をときすましの炭模様、茶飯釜でのお粥さんの仕上がりよう、早朝鳥のさえずる声の聴こゆる頃には膳を下げ、主菓子を出せるほどにさらさらと進めたくも、なかなかなかなかでございます。茶事での主人公は釜にありと常々思っておりますが、釣り釜での主役はどうも炭にあるように思います。

暗闇での赤々とした炭の力、粥に、汁にと、自在鉤を上げ下げする度に、炭の移ろい逝く姿の語らずして語りくれる炭の妙味、かくして暁の仕上げは炭に有り候…かと。

挑んでも挑んでも中立までの炭模様 一筋 縄ではいかぬもの…と。(編集子…それが楽

しい) 利休さんの時代の二〜三人様でのものなしと違い、今日では十人前後のお席が通常にございます。拙庵でも幾度も落ち込むこと枚挙にいとまなく、されど懲りもせず続けておりますのは、続けることでお人も私も共に育て合い、お一人お一人の力がつけば、えもいわれぬ波動が生じることがございます。

誠に得がたい一席、一席にようやく辿りつきそうな気配を感じております。

茶事千回を越え、八十路に入りてようやく力の抜けた、心からの茶事を楽しめるほどになった自分がございます。友がおります。

仲間がおります。共に一丸となって極上の一席となるよう心を寄せ合つての一席一席にございます。

早朝より御来庵の皆様、裏方さん共に力

がついてきております。一年に一度しか機  
会の無い暁にございますが、よくよく寒中  
にて早朝よりのお運び、茶の湯という世界  
に不思議な力が働くのでございましょう。

御家族の御協力、御自身の健康、茶事へ  
の思い、茶の道、茶道という道しるべがあ  
るとはいえ、終わりのない修練の場にござ  
います。

茶事とは、一席一席楽しく、限りなく優  
しく、気働きと心映えを鍛錬に養う場であ  
ってみれば、終わりのない、卒業のなきこ  
とにございます。年齢よわいに関係なく生ある限り、  
瑞々しい感性を養う場でありたいと願って  
おります。

茶事の場合は人生の道場でもあるようです。  
そして、そこには心惜しまぬ仲間、良き茶  
友に恵まれて、始めて成り立つことのように  
に思います。

八十を過ぎてようやく心も体も無駄に痛  
めつけることなく、皆が共に一席を、一服

を極上の時間にしようと思いを注ぎ合う波動  
は何ものにも替えがたい時間にございます。

御来庵の皆様、そして連日組のキャリア  
メンバーの皆様、京都・東金共々連日の深  
夜二時起床という御協力を誠にありがとう  
ございました。

早朝の静けさを乱すことなく働き合うチ  
ームプレーの素晴らしさは、今後皆様それ  
ぞれの宝物になっていくことでしょう。

どうぞこれからも一席一席、宝物をしつ  
かり育て、心の財産家として、一層の豊か  
さを念じつつ、今年の暁の感謝と感想とい  
たします。

能登半島地震、珠洲義援金の御協力のほ  
ど、ありがとうございます。

大勢の方々から御協力を賜りましたこと  
厚く厚くお礼申し上げます。舟見有加様か  
らの感謝のメッセージも既にラインにて皆  
様には届いているかと存じます。

先日銀座和光にての作品展の折、珠洲焼

の作陶家でもいらっしやる御主人様にお目  
にかかることが出来、ほんの僅かな時間で  
したが、とても不思議な贅沢な時間にござ  
いました。

三年続きの地震にて、三度ともことごと  
く登り窯、穴窯も壊れ、筆舌に尽くしがた  
い悲しみ苦しみを背負っておいでのはずで  
すのに、すべてを越えたところの清々しい  
光を放っておられたのです。

穏やかな深く澄んだその眼差しを私は生  
涯忘れることはないでしょう。

お人の力の不思議さ、生かされているこ  
との尊さ、格調高い珠洲焼のフォルムの美  
しい作品群はすべて赤丸がついておりまし  
たが、あの大地震で生き残った作品を買わ  
れた幸運な人々にも思いをはせながら余情  
長き帰路にございました。

珠洲での再興をお祈り申し上げつつ、皆  
様へのお礼の御挨拶、御報告とさせていた  
だきます。

読んで得するおまけの頁

○飯蛸いぼたこ

足まで入れて体長が十〜三十センチほどで、蛸の中では最も小さいのが飯蛸です。

産卵期は二月から三月頃で、そのころに

なると、雌は銅の部分に卵をびっしりと

抱え込みます。二月はその卵を抱いた飯

蛸の走りの頃です。「飯蛸や飯のところを

二つ切り」(野村喜舟)という句がありま

す。

イカめしと同じように、その部分を二

つに切ると、切り口に飯粒が詰まってい

るように見えます。飯蛸の名もそこから

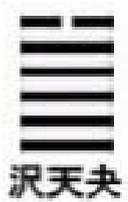
きているのですが、何といってもほっこ

りと煮含めたもの美味です。

廿八方の当たりで煮みてください。

出会ったら是非!

三月(弥生)の卦



弥生という三月の異称は春

たけなわの、いよいよ草木が

生い茂る季節という意味です。陽気が伸張

する月です。

三月の卦は、「沢天夫」で十二支では、辰月

であります。下の卦は、天で一月、二月と

変わらないのですが、上の卦は、沢で水の

集合体ということになります。

つまり非常に高いところに水がある状態

です。やがてその水によって万物が潤おう

ことも意味しています。

四月は全陽となりますが、三月はこの全

陽に向かって陽気がいよいよ伸張する月で

す。自然はすべて向陽の気にあふれ、陽気

が満ち満ちていきます。これは次の季節に

向かって、活発に行動するべきだという事

だそうです。さまざまな行動を起こすこ

れが成就されやすい月という意味になるそ

うです。

四月(卯月)の卦



全能にして最強の月

四月の卦は、「乾为天」。

凶の卦を見ればわかりますように、上卦も

下卦も天で全陽です。これは全能にして最

強の月を意味します。すべてが極限まで活

性化し、あらゆるものが満ちあふれる月と

位置づけられています。

四月には高い山に登る行事が各地にあり

ますが、これは上も下も天である四月に因

み、天に近づこうとする願望を意味すると

いわれています。

但し、すべてが揃っている状態は、その

後に失うことを意味します。

様々な望みがかなうとされていますが、決

しておごってはならないという戒めも易で

は説かれているようです。